

- (4) 消化機能に障害をきたすので、服用時には消化しにくいものや脂ものは避ける。
-

D. 和解法

臓腑間の機能調整・扶正と祛邪・清熱と散寒などの組み合わせにより、陰陽失調を正常に回復させる方法である。

1 和解半表半裏

- 適応証……半表半裏証：往来寒熱・胸脇部の脹った痛み・口が苦い・咽がかわく・悪心・尿量減少・脈は弦など。
- 使用薬物……三焦を開通して邪を透発する柴胡・青蒿などの透表薬を主とし、知母・黄芩などの清胆熱薬、草果・半夏・厚朴などの苦温燥湿・理気薬、人參・党参・炙甘草・白芍などの扶正達邪の補益薬を配合する。
- 代表方剤……小柴胡湯・達原飲など。
小柴胡湯は少陽病に、達原飲は邪在膜原に用いる。

2 和営解鬱

- 適応証……肝鬱血虚：ゆううつ感・いらいら・怒りっぽい・両胸脇部の脹った痛み・乳房が脹る・月経痛・月経不順など。
- 使用薬物……柴胡・青皮・鬱金・川楝子などの疏肝理気解鬱薬に、当帰・白芍・熟地黄などの補血柔肝薬を配合する。血瘀をとまなうときは桃仁・紅花・延胡索などの活血化瘀薬を、肝鬱化火には山梔子・牡丹皮・竜胆草などを加える。
- 代表方剤……逍遙散・加味逍遙散など。
基本は逍遙散で、肝火旺をとまなえば加味逍遙散を用いる。

3 調和肝胃

- 適応証……肝胃不和：上腹部の膨満感や疼痛・食欲不振・噯気・吞酸・悪心・嘔吐・いらいら・口が苦いなど。
- 使用薬物……疏肝解鬱薬に、紫蘇葉・呉茱萸・陳皮・半夏・生姜（わが国の

生薬名・生姜は乾姜である。新鮮生姜を購入して使用すること）などの温性の理気と胃薬、黄連・竹茹などの清胃熱の薬物を配合する。

- 代表方剤……柴胡疏肝散・半夏厚朴湯・左金丸など。

柴胡疏肝散・半夏厚朴湯は肝気鬱結が主なものに、左金丸（黄連＋呉茱萸）は胃気上逆が主なものに用いる。

4 調和肝脾

- 適応証……肝脾不和：腹部膨満・腹痛・腹鳴・下痢が生じ、精神的緊張や情緒変動にともなうことが多い。

- 使用薬物……疏肝解鬱薬あるいは養血柔肝薬に、白朮・茯苓・黄耆・党参などの健脾薬を配合する。

- 代表方剤……芍薬甘草湯・痛瀉要方・逍遙散・四逆散など。

芍薬甘草湯・痛瀉要方が基本で、肝気鬱結が強いときには逍遙散・四逆散を用いる。

5 調和脾胃

- 適応証……脾胃昇降失調：悪心・嘔吐・上腹部のつかえと腹鳴・下痢など。

- 使用薬物……苦寒清熱の黄芩・黄連などと辛温降気の乾姜（わが国の生薬名・生姜が乾姜である）・半夏などを組み合わせて寒熱を調和させ昇降をととのえる。

- 代表方剤……半夏瀉心湯など。

和解法を使用するうえでの注意点

和解法は扶正と祛邪・散寒と清熱・昇降の調和・臓腑間の機能調節を目的とするもので、それぞれ特色がある。発汗・攻下しないから安全と考えて、安易に使用してはならない。

E. 温裏法（温法）

温性・熱性の薬物によって陽気を補って寒邪を除去する方法で、裏寒を治療する。